

ながたしゅうらくのうち・みずほぜんかんりかつどうそしき

永田集落農地・水保全管理活動組織

～シバザクラと花桃が咲き乱れる里永田～今日もえーひだ～



水田面に鏡写するシバザクラの花絨毯



小学生のシバザクラ植栽体験学習の様子

経緯

- 永田集落は山間地域に位置し、棚田状農地特有の長大かつ急傾斜な畦畔の管理作業等の省力化、次世代への集落全体の継承が大きな課題であった。
- 課題解決のため、農地の持つ多面的機能の発揮を促進すべく平成24年度に組織を設立。シバザクラの植栽活動等を中心とした共同活動に取り組んだことがきっかけ。

取組内容

- 平成26年度から令和2年度までに、水田畦畔等にシバザクラ7万本、花桃500本を植栽。総面積は9,000㎡に拡大。
- 比田小学校5・6年生による、シバザクラ植栽体験学習を実施。
- 開花シーズンには「猿隠高原シバザクラ祭り」を開催。県内外から多くの方が訪れる一大イベントに成長。
- ブランド米「シバザクラの里猿隠高原比田米」の販売を開始。

活動の効果

- 植栽活動は、畦畔草刈作業の省力化に加え、法面崩れによる土砂流入等災害防止効果も得ている。また、集落の女性を中心に、若い世代の積極的参加、地域外からのボランティア参加等により、集落活性化に繋がっている。
- 「猿隠高原シバザクラ祭り」は、県内外からの消費の呼び込みと、緑化協力金による出資の呼び込みによって、関係人口増加と集落の魅力発信に多大な効果をもたらしている。

応募団体からのアピール・メッセージ

『シバザクラと花桃が咲き乱れる里～今日もえ～ひだ(比田、日だ)～』をスローガンに地域住民が「毎日がいい日だ」と思える地域づくりを念頭に、「日本一のシバザクラと花桃の里」を目指す。

永田集落農地・水保全管理活動組織 代表 Tel:0854-34-0336

ゆい さと
結の里 たら

～奥田原を楽しみながら守り発展させていきたい！～



マコモの作業



マコモのしめ縄

経緯

- 小学校の統廃合により、益々過疎化・高齢化が進む奥田原を何とかしたいという思いから「結いの里たら」を結成。
- 自然豊かな奥田原の特性を生かしつつ、子どもたちと楽しみながら、地域に役立つ活動を通して奥田原をよりよくしたいと考え、活動を開始。

取組内容

- 耕作放棄地を活用し、空気や水を浄化する効果があるとされているまこもの苗を植えて、環境保全をするとともに、まこもの葉を神社に納め茅の輪やしめ縄として使用されている。
- 地区の子ども達と一緒にまこもや地元の食材を使用したふりかけ作り。栽培から試作まで参加しており、食育に繋がっている。また、ふりかけ作りはイベントでワークショップを開催し、活動を拡げている。

活動の効果

- まこもの栽培は、毎年作付面積が増加しており、耕作放棄地を有効利用することに繋がっている。また、子ども達と一緒に無農薬野菜を育てたり、加工品を作ったりといった活動を行うことは、食育体験にもなり、奥田原地区の一員という自覚も芽生えている。そういった環境で育った地区外に出ている若者達も、声かけすると帰ってきてくれ、地区を元気にしてくれている。

応募団体からのアピール・メッセージ

子ども達も一緒になって活動し、元気な奥田原地区として地域外のみなさんにも広く知っていただくような活動を目指しています。

ごとうがいしゃ やまだや いずも すばいすらぼ
合同会社 山田屋(出雲SPICE LAB.)

～ 雲南をもっとスパイスの里へ ～



代表山田(左)と事業運営に加わった中野(右)



商品は無添加で全て手作り

経緯

○学生時代から50か国以上を旅した経験と、地域で育てられている唐辛子や生姜の栽培を「スパイス」で結び、耕作放棄地を活用して育て、商品を製造することでブランド化を目指し、収入難や耕作放棄地といった農業課題にアプローチしたいと活動を始めた。

取組内容

- 地元産や自社農園のスパイスを活用し、山陰初のクラフトコーラを製造、販売。クラフトコーラ以外にも、こどもコーラ、手作リエナジードリンク、ジンジャーチャイドリンク、スパイスカレーが手軽に作られるスパイスキットなども販売。
- 2019年より耕作放棄地を再耕作し、スパイスの栽培(生姜、唐辛子、ウコン、コリアンダー等)を開始。
- 2021年からはスパイスカレーに合うお米の品種「プリンセスサリー」を、地域の農業法人と協力し栽培。商品はスパイスだけではなく、商品と組み合わせて販売する作物や、これまで地域では育てていなかった作物を栽培し、新たな価値を創造している。

活動の効果

- (R2年度) ○販売本数:約7,000本 取り扱い店舗:全国約35店舗 メディア掲載:25件
- 耕作放棄地の再活用20a(畑10a、水田10a)

応募団体からのアピール・メッセージ

飾らず等身大な生き方をしていきながら、将来的には全てのスパイスを地域で連携して栽培し、雲南市を「スパイスの里」にしたい。農業課題解決とともに農業の楽しさと6次産業化による地域活性化の事例として多くの方に取り組みを伝えていきたい。

うめぎはらしゅうらくえいのうくみあい

梅木原集落営農組合

～シバザクラで美観アップと作業の省力化～



シバザクラの植栽作業



シバザクラ植栽後の様子

経緯

- 集落内ですでにシバザクラの植栽に取り組んでいる人があり、地域のみなさんが満開の花の素晴らしさを見ていた。
- 営農組合員の高齢化が進み、農用地法面の草刈りの省力化を図る必要があった。

取組内容

- 初年度から毎年、農用地法面の除草作業に負担がかかっているところから随時植栽。事前に草刈りから防草シート張りまでの作業を行い、その後、組合員や家族をはじめ自治会員に呼びかけ、地域活性化を図り、世代を超えた皆さんでの作業でコミュニケーションの充実も図りながら、シバザクラの植栽作業を行っている。

活動の効果

- シバザクラの植栽作業は、世代を超えて老若男女の皆さんでの作業であることから、作業中には、地域の昔話や過去の出来事等を語り継ぐ機会にもなっており、コミュニケーションの充実も図られている。また、満開時の状況は当初の計画どおり、地域の美観アップに成果を挙げることができている。
- 植栽地が国道沿いにあることから地元のみなさんのみならず、通りすがりの方々も車を止めて見学されるなど、満開時には多数の見物人がお見えになっている。

応募団体からのアピール・メッセージ

現在の取組みを毎年繰り返し行うことによって、農地用法面等の草刈りの省力化や地域の美観アップを徹底させ、世代を超えて作業をすることのメリットを重視しながら、地域の活性化を図っていきたい。

株式会社サンエイト・社会福祉法人奥出雲町社会福祉協議会

～唐辛子がつないだ 普通の幸せ～



唐辛子の選別とヘタ取り作業



ひきこもりサポーター養成研修会の様子

経緯

○ある日、ひきこもり支援を担当している社協職員が、サンエイト役員である知人の顔を見ながら思いついた。「ひきこもりと言われる皆さんが一步家から出るための“何か”をずっと探しているのですが…。あ!!そちらで作っておられる唐辛子のヘタ取り作業、やらせてもらえませんか？」そんな大雑把なヒラメキと無謀な厚意から始まった。

取組内容

○唐辛子の選別や瓶詰、エゴマの種まきや植え付けなどの作業を就労体験の場として提供。これに伴いサンエイト社員は「ひきこもりサポーター養成研修」を受講し、知識をもってメンバーに接している。

活動の効果

- 平成31年に協定を締結して以来、歴代メンバー11名が活動をとおして社会復帰への心の準備を行う中、令和2年にはメンバーの内3名が地元企業に就職を果たす。また、令和3年に入ると1名がサンエイトの正規社員として雇用されることとなった。
- サンエイトの取り組みに賛同する企業の輪が広がり、令和2年にはサンエイトに続いて畜産業、産業廃棄物収集運搬業の企業とも協定が結ばれ、地域全体での取り組みになりつつある。

応募団体からのアピール・メッセージ

農作業を通して社会復帰に向けての心の準備などの段階を踏み、最終的には一般就労を目指す。住民や地元企業を巻き込んだ連携を一層進めたい。

村上 明雄

～作業の効率化の推進と後継者を育てよう！～



育苗ハウスの設置に取り組む組合員



種まきの共同作業風景

経緯

○梅木原集落営農組合では、組合員の高齢化が進み、個人での種まきからの一連の農作業が充分できなくなってきたことから、各作業工程を共同化することで、個々の負担の軽減と作業の効率化を図るとともに、後継者の育成が急務であると認識したことから始めた。

取組内容

- 家族を含む組合員の研修視察の実施。
- 種まき作業からハウスでの育苗まで、共同作業の推進。
- 作業道路等の舗装修理の取組み。
- 農薬散布にドローンの導入、隣接する営農組合と共同で防除作業を効率化。
- 環境保全・景観保全活動の展開。農用地法面等にシバザクラを植栽。
- 後継者の育成。

活動の効果

- 毎年の作業のなかで作業の効率化や後継者育成に取り組んだ結果、確実に後継者は育っており、今後の営農組合の運営にも好結果を残すものとなっている。
- 環境保全についても、シバザクラの植栽事業は完全に定着し、組合員以外の自治会員からも作業に出かけるなど、地元の名物行事となってきている。

応募者からのアピール・メッセージ

他営農組合等との連携も重視し、お互いに切磋琢磨して農業に従事していきたい。また、長年培った知識を確実に後継者に引き継げるよう、今後ともコミュニケーションを重視して日々努力していきたいと考えている。

奨励賞

のうん しゅうろうけいぞくびーがたじぎょうしょ
(株)あゆみ あゆみ農園(就労継続B型事業所)

～三方よし！農地を守る地域商社～



市場ニーズの高い農作物を栽培しています



農作物を袋詰め作業しています

経緯

- 町の農業実態を行政、農家から話を伺ったことを機に、幅広い農福連携ができないか内部協議の結果、生姜をメイン農作物に据えた事業展開を検討。
- 町内の農園やJAからパプリカの袋詰め・シール貼りの作業を受託するようになり、この形を発展させ、販売先へ商品を配送する仕組みを創設。

取組内容

- 町内で障がい事業に理解を示す7つの農家、(株)ウシオ、(株)農業総合研究所と連携。施設利用者が軽易な作業で商品を作成、販売先へ商品を配送する仕組みを創設。
- 町内農家、販売先と一体化した地域商社事業や草刈活動による地域活性化と所得(工賃)向上。

活動の効果

- 当施設利用者の年間一人当たりの平均工賃月額が、取組前と比較して大幅に上昇。農家においては、流通先が拡大したことにより収益が増加、また、契約取引により販売額が向上し、安定経営、地域活性化の効果が出てきている。
- 耕作放棄地削減のための草刈による環境保全活動は、近隣市町村へと活動範囲を拡大。

応募団体からのアピール・メッセージ

農業は自然と触れ合い、障がいを持つ方が無理なくその能力に応じて働く事ができ、充実感や自信、生きがいをもってできる仕事。今後も地域、関係機関と『ともに進み』、『ともに歩んで』いける施設を目指す。

(株)あゆみ あゆみ農園 Tel: 0854-72-9373

かぶしきがいしゃ

株式会社オーサン

～「エゴマ」をもっと食卓に～



丹精込めてエゴマを栽培



川本小学校での食育授業(中央は「エゴマ」)

経緯

- 土木建設業を営む企業が、川本町の特産品として推進される「エゴマ」に着目し、新たな事業の柱として生産、商品開発を目指した。
- 地域の特産品を県内だけでなく首都圏の高級スーパーやネット販売にて「エゴマ」の魅力の発信を考えた。

取組内容

- 「エゴマ」を原材料とした6次産業化に複数の県内企業と取り組んだ。
- 「エゴマ」について、町内の小学生を対象に食育教育を行った。
- 自社SNSやテレビ等のマスコミ取材の他、県外での販売促進イベント等に出展し、川本町の「エゴマ」の魅力を発信した。

活動の効果

- 県内複数の企業と共同で「エゴマ」関連の新商品(ラーメン、かまぼこ等)を開発し、商品群が増加した。また、有機JAS認定を取得し、自家生産した「エゴマ油」、「えごま茶」、エゴマの搾りかすを与えた「鴨肉」などは、新たな価値の創造と協力企業との相乗効果を実感した。
- ネット販売のリピーターは約300名と定着し、コロナ禍の売上高が維持できた。

応募団体からのアピール・メッセージ

県内企業・大学と協力して、新たな切り口の商品を開発・研究することで「エゴマ」の更なる可能性を追求し、より多くの方に「エゴマ」の良さを知って頂きたい。

奨励賞

 いっぱんしゃだんほうじん ちいきしょうしゃ おおなん
一般社団法人地域商社ビレッジプライド邑南

～地域で雇用と経済循環を目指す地域商社～



有名シェフによる協力隊の研修風景



地域住民の生活支援の拠点のスーパー

経緯

- 邑南町の推進する「A級グルメ構想」を担う機関として、邑南町観光協会から2017年に分社化。地域おこし協力隊の支援事業を継続して料理人を育成。
- 地域資源を活用し、町民の“稼ぎ”を向上させ、地域の“誇り”を持つ人を増やし、町の持続可能な発展と地域内の経済循環を目指した。

取組内容

- 地域おこし協力隊を受け入れ、飲食店等の起業を後押し。
- 地産地消の農産物を地元レストラン、県立高校の寮において活用している。
- 町民の生活環境向上にスーパー・ガソリンスタンドの運営を行い、この拠点から配食サービス、移動販売などの支援に取り組む。
- 町から「ふるさと納税事業」の委託を受け、ECサイト運営による新たな販路開拓。

活動の効果

- 開業の後押しにより町内の飲食店が過去10年で20店舗増加し、50店舗余りとなった。
- ふるさと納税の寄付額が3倍になったほか、町内事業者の所得向上と、アフターコロナに対応した安定した経営のノウハウを学ぶ機会となった。
- 大学生の受け入れや、小中学生を対象にした食に関わるプロジェクトの実施が商品開発、経営感覚、接客等の食に関する様々な体験の提供の場となった。

応募団体からのアピール・メッセージ

邑南町でA級グルメの取組により地域経済を活性化させ、子どもから高齢者までが豊かさを実感しながら暮らせる元気な田舎を地域商社が繋ぐ事例を全国に発信する。

しめがわのかて

注連川の糧

～日本に未来のために 未来の子供達のために～



生き物調査 田んぼでの調査



はで干し講習会 高校生に教える

経緯

- 現在の米農業のあり方及び集落存亡に疑問と危惧を覚え、食の安全、環境保全、流通の見直しなどをテーマに掲げる。
- 元来、良食味米産地といわれる注連川地区の強みを生かし、高品質で本当に必要とされるものを生産流通させる事で健全な里づくりをめざし、平成17年有志で発足。

取組内容

- 発足当初より、独自栽培基準 K1(化成肥料及び農薬不使用)、K2(化成肥料不使用、農薬3成分以内)を設け栽培に取り組む。
- 毎年6月に、地元小学生を中心に参加者を募り、有機圃場での生き物調査を実施。田んぼや水路に生息する生き物を探し、種類数を調査し、クイズも交えて楽しく活動する。
- 毎年10月に、はで干し(稲の天日干し)講習会を実施し、最近めっきり見かけなくなったはで干しに取り組みその技の伝承に努める。

活動の効果

- 雑草、害虫対策や収量減などの問題はあるが、土壌は豊かになり、生き物も増え、そして米の食味は著しく向上した。
- 平成18年より国内最大級の米コンクールに出品を始め多数回受賞し、栽培方法や良食味産地としての裏付けとなる。
- 高校生やターンの方、県外者などの幅広い層の参加者が増加しており、SNSも後押しして重要な地域発信の場となっている。

応募団体からアピール・メッセージ

「注連川の糧」発足から17年、未だ雑草・害虫と戦っていますが、決してゼロにすることは出来ません。しかし、その性格と折り合いをつけることがコツであり、また害虫は益虫の餌となり、そうした関係性の中で多様性が保たれると思っています。

吉賀町は高津川の源流に位置した里山であり、わが里がいつもまでも里山であるようお願いしながら、今日も雑草と戯れています。

吉賀町注連川 Tel: 0856-78-1218

のいち ゆめじ
野一 夢二

～東方隠岐誉・純米大吟醸”神秘の島より出航～



東方隠岐誉商品画像



告知ツイートが話題になった様子2,500いいね

経緯

- 令和元年の5月に隠岐の島町に移住し、役場地域振興課にて地域おこし協力隊として活動。
- ミッションは「IT技術を用いた情報発信」「UIターン促進」であり、前職でゲーム会社に勤めていたノウハウを活かし、「エンターテイメントによる地域振興」を信条に、ゲーム・漫画・アニメ業界と積極的に提携した活動を行っている。

取組内容

- 世界中で有名なゲーム「東方Project」に登場する隠岐の島に伝わる舟幽霊の民話「ムラサ」をモデルにした「村紗水蜜(むらさみなみつ)」というキャラクターと隠岐の島の地酒である「隠岐誉」をコラボさせた「東方隠岐誉・純米大吟醸」という商品を開発。
- Twitter上で大きく話題となり、同商品の告知ツイートは2,500いいねを記録し、それまで100人程度だったフォロワーも1,600人まで増加。

活動の効果

- 令和2年9月1日に行われた予約注文でも、Twitterマーケティングのみで100本限定販売の特典付き商品(9,800円)をわずか4分で完売。
- その後の単品販売でも400本近く売り上げ、これまで島とは縁遠かったエンタメ業界とのコラボ、及びWEBマーケティングの可能性を町内外に発信。
- コラボ第2弾となる東方藻塩米の予約注文でも、100袋限定販売の特典付き商品が即完売となった。

応募者からアピール・メッセージ

クールジャパンに代表されるように、日本のゲーム・アニメ・漫画などを中心としたサブカルチャーコンテンツは国家を象徴する文化になりつつあります。この東方隠岐誉での成功は隠岐の島町のみならず日本中に新しい地方創生の可能性を提示する一つのきっかけになれるのではないかと考えております。

隠岐の島町役場地域振興課 Tel:08512-2-8570